

## 今月の重点活動

### ■みかん ドローンによる防除実演会の開催

11月7日、JAにしみの南濃みかん部会は、養老山麓にある同部会長のみかん園において、ドローンによる防除の実演会を行った。

実演会は、同部会、JAにしみの、メーカー、西濃農林事務所が連携して開催し、ドローンの他、無人ヘリコプター、農業用無人車による農薬散布の実演も行われた。

みかん園のほとんどが養老山麓の斜面にあるため、薬剤防除にはスピードプレイヤーの導入は難しく、動力噴霧器による手散布となっている。特に、夏季の防除は重労働となるため、作業負担の軽減が望まれている。

今回の実演を機に、ドローンによる防除への関心が高まったことから、農林事務所では次年度に向けて、ドローンによる体系防除の実証ができるよう支援していく。



【実演の様子】

## 安心で身近な「西濃の食」づくり

### ■特別栽培米 養老滝物語米、今年の実験結果が出る

11月10日、養老町水稻生産者で組織する「養老滝物語生産組合」の令和4年産米の出荷検査および反省会が行われた。

会員が見守る中、それぞれが出荷した米をJAの検査員が検査し、等級の格付けと格下げ理由についての説明が行われた。全体に白未熟粒と判別されるものが多く、殆どが2等となった。

農林事務所からは、今年の実験結果や、坪刈り収量や品質分析の結果を説明した。特に、10月に降雨が少なく、落水が早かったほ場で品質がやや劣っていることを説明した。また、適期刈り取りを行ったほ場で1等が出ていることから、実際の刈り取り時期が遅れ気味だったのではないかと説明を行った。次年度の病害虫対策については、改めて説明を行うこととする。



【検査を見守る生産者】

### ■ブロッコリー JAにしみの産ブロッコリーの出荷始まる

11月22日、JAにしみの大垣営農経済センターにおいて、ブロッコリー大垣部会の出荷目揃会が開催された。今年は8月中旬以降の降雨の影響で、ほ場準備や定植が遅れ、生育が心配されたが、例年よりやや早い10月21日から出荷が始まった。

目揃え会では、まずJA全農岐阜及び岐阜市場から情勢報告、競合産地の状況と出荷調整の仕方、出荷規格表の遵守等の説明が行われた。その後、現物を見ての出荷規格の説明があり、生産者は熱心に出荷規格を確認していた。

農林事務所からは、生育経過と今後の栽培管理のポイントを説明した。管内のブロッコリーは値決め販売で相場変動に影響を受けにくい方式となっており、農林事務所では、農家の所得向上に繋がるよう、引き続き栽培管理等を支援していく。



【出荷目揃い会の様子】

## 西濃の農畜水産物のブランド展開

### ■冬春トマト・きゅうり等施設野菜部会

#### 肥料高騰対策事業申請支援

11月15日、JAにしみの海津中支店において、同支店管内の冬春トマト・きゅうり・メロン・いちご・なす部会などの生産者に対する肥料高騰対策事業申請の説明会が開催され、50人余りの生産者が出席した。

説明会終了後には、農林事務所とJAで申請書類の作成等の個別支援も行った。

また、別日には果樹部会や露地野菜部会、直売所出荷者等に向けても同様に、順次説明会及び申請支援が行われた。

農林事務所では、引き続きJAと連携して申請支援を行っていく。



【説明会の様子】

### ■いちご ほ場巡回研究会の開催

11月14日、海津苺部会のは場巡回研究会が開催された。部会役員と農林事務所、JA、天敵メーカーで会員のは場を巡回し、生育状況や病虫害の発生状況の確認を行った。

開花状況から、出荷は平年よりも7～10日ほど遅い12月上旬となる見込みである。

農林事務所からは、2番の出蕾状況や今後の草勢管理について説明を行い、天敵メーカーからは、ハダニ類の発生状況や今後の防除方法について説明が行われた。

農林事務所では、引き続き安定出荷ができるよう支援を行っていく。



【意見交換の様子】

### ■花き 県育成品種の生産者巡回指導

11月8日、県育成品種の生産者（切り花フランネル3名、カレンジュラ1名）の巡回指導を行った。

切り花フランネルについては、出荷規定の長さを超え、順調に出荷が進んでいる状況であった。また、今回初めて利用した植物成長調整剤「プロヘキサジオンカルシウム塩水和剤」は、効果にバラツキが見られたため、使用時期、散布量などを再検討することとした。さらに、来春の生産に向けた苗の準備も進んでおり、摘芯時期や鉢替えの時期について確認を行った。今年度試作した生産者は、今回の秋作で良好な栽培環境が確保できなかったため、栽培場所を変えて春作を行う予定である。

カレンジュラは、植物成長調整剤の使用時期も良く、試作としては良好な出来となり、今月末から来月にかけて出荷を迎える見通しである。

農林事務所では、今後も安定生産ができるよう栽培支援を行っていく。



【カレンジュラの様子】